

「熟議」から見えてきたものは 第2回全体会（11月10日）

11月10日（水）18：30より、矢吹町複合施設（KOKOTTO）において矢吹町学校運営協議会第2回全体会が開催されました。前半は、今年度のテーマに基づく部会の枠を超えた「熟議」、後半は各部会に戻って「熟議」が行われました。

事前配付資料につぶさに目を通していただいたおかげで、「熟議」開始と同時に活発な意見交換等が行われ、他部会の取組について共有することが出来たことは大変意義深いものでありました。また、話し合いの中から共通の課題にもなっている「地域」との連携のあり方等を模索するための「カギ」となる「キーワード」も見えてきました。

部会の枠を超えた「熟議」（前半）



他部会の取組についての質疑等

部会に戻っての「熟議」（後半）



後半の取組をさらに深めるためには

「熟議」より(抜粋)

- あいさつをする機会をどう作るかが大切。
- 大人と子どもと一緒に「あいさつの大切さ」について学ばせ場を設ける。
- あいさつをしない（できない）子どもの気持ちを考えることも大切。
- 「キャリア教育」の観点からもあいさつは信用される人間としての重要な資質であることを教えていく。
- 自分たちが住んでいる町の人とのふれあいを通してあいさつが広がる。
- 大人の関わりが大切。
- 基本的なあいさつ（「おはよう」・「こんにちは」・「ごめんなさい」）は家庭での教育。親の意識を高めたい。
- あいさつと不審者（対策）との兼ね合いが難しい。
- 高学年に対しては、「恥ずかしがるのが恥ずかしい」という指導を行う。
- 幼小で連携した取組が行われていることは素晴らしい。
- 他部会の取組について共有できたことは意義深い。等

佐久間邦友委員より 「地域学校協働本部と学校運営協議会との連携」について

次年度から立ち上がる「矢吹町地域学校協働本部」とCSの連携の「カギ」についてお話いただきました。

- ◆地域コーディネーター（オンライン学習中の大学生の活用等）
- ◆学校支援活動の内容の変化（カリキュラム作りへの参加）
- ◆「連携」から「協働」へ（地域からもらいっぱなしではなく、CS委員がスピーカーとなって発信を）等

□ 第3回全体会は、2月9日（水）18：30（KOKOTTO）開催予定です。